



ハートフルナース

高齢社会を迎えるインドネシアへ

JAMNA セミナー

in ハサヌデイン大学

— 転倒予防と認知症ケアの最前線を紹介 —

2025 年 5 月 26 日（月）、インドネシア・南スラウエシ州マカッサルのハサヌデイン大学にて、当法人による高齢者ケアの最前線と転倒防止と認知症ケアに学ぶというタイトルのもと、「認知症患者への効果的なコミュニケーション技法」と「高齢者に対する転倒予防・骨折予防を目的とした運動療法」についての医療講演会を開催しました。インドネシアが急速な高齢化社会に向かう中、看護学生や現役の医療従事者を中心に約 130 名を超える方が参加し、現地における高齢者ケアへの関心の高さを実感できる機会となりました。



冒頭の挨拶をする事務局長の岩本



感謝の意を表明して下さったシャフル看護学部副学部長

現在、インドネシアでは平均寿命の延伸と医療水準の向上により、65 歳以上の高齢者人口は 2023 年で約 1970 万人。2050 年には 4860 万人に倍増するとされ、全人口の約 15% を高齢者が占める見込みです。それに伴い、フレイルやサルコペニア、認知症といった高齢者特有の健康課題が深刻化しつつあります。

「高齢者に対する転倒予防・

骨折予防を目的とした運動療法」

講演者 森山善文

第 1 部では、今回、お招きした外部講師で健康運動指導士の森山善文氏が登壇し、「高齢者に対する転倒予防・骨折予防を目的とした運動療法」について講演を行いました。講演では、加齢に伴い転倒リスクが増加する背景を説明し、骨密度を維持・向上させる運動療法や、2 ステップテストなどの簡易評価法、抗重力筋を鍛えるバランス運動など、

（裏面へ続く）



実践を交えて講演する
森山氏の様子

現場ですぐに活用できる具体的なアプローチが紹介されました。参加者がその場で実践するシーンもあり、運動による転倒予防の効果と可能性について、体験的に学ぶ内容となりました。

「認知症患者への効果的な

コミュニケーション技法」

講演者 熊澤和秀

第2部では、当法人職員で看護師の熊澤和秀が「認知症患者への効果的なコミュニケーション技法」をテーマに講演しました。インドネシアにおける認知症患者は2015年時点で約120万人と推計されていますが、2050年には430万人超に増加すると見込まれています。熊澤

は、ユマニチュード、

バリエーション、リア

リティ・オリエンテー

ションという非言語的

なケア技法を解説し、

参加者とのロールプレ

イを交えて、信頼関係

を築くための接し方や

共感的な態度の重要性



参加者と熊澤が認知症患者の対応をロールプレイで実演している様子



質疑応答の様子

セミナー会場では、学生たちが熱心にメモを取りながら耳を傾け、質疑応答の場面では現地の課題や家族介護の悩みなど、切実な声が講師陣に寄せられる一幕もありました。参加者からは「運動の必要性をはじめて理解した」「認知症ケアにおける『心の寄り添い』が印象に残った」などの声が上がリ、日本からの知見が現地での実践に役立つことが確認されました。

今後も当法人では、高齢者ケアの質的向上を目指し、日本の医療・介護技術を共有するセミナーを継続的に開催して参ります。



公益財団法人
日本アジア医療看護育成会
JAMNA